

春の風物 (1)

～桜と芝桜をたずねて里の道に行く～

2013/03/18

例年になく雪が多かった冬が去ったと思ったら、これまた例年になく温かい春が駆け足でやってきた。草木も春の装いに衣替えするのに大忙しに違いない。春の代表的な風物と言えば何といても桜。そして、芝桜。そこで、桜と芝桜をたずねて里の道に行くルートをご紹介しますと思います。

今回取り上げるのは千葉市の「とっておき観光コース」（公益社団法人千葉市観光協会のホームページ <http://www.chibacity-ta.or.jp> 参照。以下では「観光コース」と略す）。

観光コースの一つ『御成街道里山散策コース』をベースにして、サイクリング用に独自にアレンジしてみました。というのは、ご承知のように、御成街道は道幅が狭いわりには車が多く、自転車はもとより歩行者でさえも身の危険を感じる場所があります。したがって、往復とも、できるだけ御成街道を避けるようにアレンジしたというわけです。

ルートの概要

<千城台駅>～<御成公園・ちょうちん塚>～<長屋門>～御成街道を渡る～<金光院>～御殿町～<御茶屋御殿跡>～若葉スポーツゾーン～更級町～上泉町～<どんどん堰跡>～富田町～<原田池・千葉市富田都市農業交流センター>～<乳牛育成牧場・おなりミルク工房>～御成街道を渡る～富田町～中田町～御殿町～北谷津町～<千城台駅>

1. 千城台駅

千葉都市モノレールのターミナル駅である千城台駅を出発し、最初の立ち寄り先である「御成公園・ちょうちん塚」を目指す。

「観光コース」で通る御成街道（「御成台1丁目」交差点から「金親町」交差点まで）に行くのではなく、千城台の住宅街、金親町の集落の道に行く。



千城台駅前にはショッピングセンターがある

御成公園に沿って「ちょうちん塚」まで行く。ちょうちん塚は公園の外れ、御成街道沿いにある。ちょうちん塚に立っている看板（写真）には御成街道の由来が記されている。

ちょうちん塚を観終わったところで、来た道を引き返して、千城台東の住宅街に行く。

「千城台東町自治会館」～「千城台東第二保育所」を経由して金親町の集落に入る。



御成公園の外れに「ちょうちん塚」がある

3. 長屋門



御成公園のコブシ（２０１３年３月２０日）



御成公園の桜（２０１３年３月２０日）

金親町の集落に入ると、「金親町自治会館」を経由して、「大宮神社」に至る。

神社の手前にある駐車場に自転車を止め、徒歩で神社の境内に行く。神社の裏手に御成街道が走っている。御成街道の向こうに長屋門が見える。

長屋門を觀たら、大宮神社の境内を通過して自転車を停めた場所に戻る。そこから再び細道を行くと御成街道に出る。

金親町の集落を通り抜けるこのルートを進むと、日本の伝統的な集落の佇まいというものを肌で感じる思いがする。



大宮神社の裏手、御成街道の向こうに長屋門が見える



大宮神社の正面の階段を上り境内を通り抜けると御成街道に出る



大宮神社の裏手にある御成街道の由来を記した看板

4. 金光院



金光院の桜（２０１３年３月２０日）

大宮神社の細道から御成街道に出たら右折する。そしてすぐ左手にある変則的な四差路で左斜め前方の細道に入る。金光院の墓苑に近づくとき鮮やかなピンク色をした満開の桜が目飛び込んできた。

金光院（の裏手）に着いたら、細道を下って境内に至る。山門の周辺に自転車を停めて、境内を散策。

桜の時期には、境内の中央、本堂の前に、見事な桜を観ることができる。今年は開花が早まっていて、お彼岸の３月２０日には、すでに咲き始めていた。

5. 御茶屋御殿跡



金光院の墓苑の傍にある満開の桜（2013年3月20日）



山門の脇にある金光院の縁起を記した説明板

金光院の桜を観たら山門から真っ直ぐ伸びている道路を行くと、御成街道に出る。ここから次の交差点である「御殿入口」までは御成街道を歩き、「御殿入口」交差点で右折する。

「御殿入口」交差点で右折して御成街道に沿って進むと、左に手入れの行き届いた林が見える。そこが御茶屋御殿跡の入り口。御殿跡は、御成街道から少し入ったところにある。

まず、御殿跡入り口（といっても小路があるだけなのだが）のところにある御成街道沿いにある立て看板の説明書きを読み終えたら、奥へと進む。ただし、小路や御殿跡は舗装されているわけではないので、自転車を入口付近に停めて、徒歩で散策してもよい。自転車とともども御殿跡へ進む場合には、御殿跡の向こう側に小路があるので、そのまま突き抜けることができる。ただし、その小路も未舗装である。

注：御成街道は、「金親町」交差点から次の「御殿入口」交差点まで、県道53号線に重なる。



「御茶屋御殿跡」は広々とした更地



「御茶屋御殿跡入口」の標識



「御茶屋御殿跡」の周囲には盛土と塚がある

6. 更級公民館

御茶屋御殿跡を観終わったら、若葉スポーツゾーンを経由して更級公民館方面へ向かう。3月18日に開通したばかりの広い道路（中田町と更級町を結ぶバイパス）を横断すると右手に更級中学校があり、校舎に沿って桜の木が植えられている。

更級中学校の外れにある斜めに交差する四差路を直進し、「更級小学校前」というT字路の交差点に至る。そこで県道66号に突き当たる。信号の向こうには更級小学校が見える。県道66号を横断し、右折したらすぐ左折する。



「更級小学校前」交差点。道路は県道66号線

7. 鹿島川

「更級小学校前」の信号を渡り、更級小学校を回り込む形で左折して細道を行くと、急な下り坂がある。そこを下ると鹿島川を水源とする水田が広がっている。少し下流にある「学校橋」を渡る。

田圃では大型機械による作業が始まっていた。畑でも手押し耕耘機による作業が行われていた。



鹿島川の傍の田圃（上泉町）



鹿島川に架かる橋の一つ「学校橋」



鹿島川周辺の畑（上泉町）

8. 馬頭観音

「観光コース」にある馬頭観音は割愛する。

9. どんどん堰跡



路傍には菜の花が見られた（2013年3月20日、上泉町）

更に道なりに進むと、左側に「どんどん堰跡」の石碑がある。石碑の背後の山で伐採された竹が石碑の上や前に置かれていた。石碑のある場所があたかも廃材置き場の様相を呈していた。

少し行くと田圃に沿った道は左に折れる。そのまま富田谷津に沿って東へ進む。

富田谷津の向こうに見えるのが「いずみの森」である。



橋を渡って鹿島川の東側にある田圃の縁の道に行く。この辺りは上泉町である。道の右側に菜の花が咲いていた。

10. いずみの森

「観光コース」は「いずみの森」を西側を御成街道へ向かって進むようになっているが、ここで紹介するルートは、「いずみの森」を北側から遠望しながら、富田谷津に沿って進んでいる。

その大きな理由は御成街道に行くことを避けたいということであるが、同時に、いずみの森を遠望しながら富田の谷津田の縁に行くことで、「里山サイクリング」を大いに楽しんでもらいたいという願いもある。いや、むしろ、後者の方が大きい。

右の「いずみの森」の写真をご覧になって、森は手入れされてすっきりしていることがお分かりいただけるだろうか。それもそのはず、この森の手入れは、筆者もメンバーになっている「千葉市里山ボランティアの会」によって行われている。



富田谷津から見た「いずみの森」



富田谷津の縁を進んで行くとやがて右手にポンプ小屋（富田谷津揚水機場）、前方の道の向こうに学校のような建物（社会福祉法人光の村授産園）が見える。道路を右折し道なりに進む。ここからしばらく上り坂が続くので、のんびりと行く。

1 1. 原田池・富田都市農業交流センター



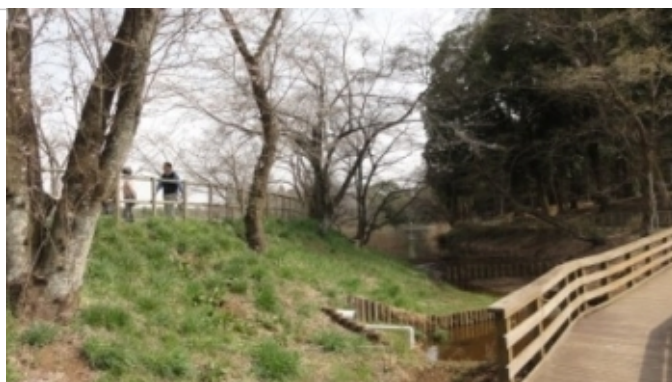
千葉市乳牛育成牧場に隣接するお花畑の芝桜（2013年3月20日）

坂を上り、台地をしばらく行くと、畑の向こうに牧場の柵、色とりどりのお花畑が見えてくる。目的地の原田池のバス停（写真）・富田都市農業交流センターは道の左側にある。

バス停のところは駐車場でもある。駐車場の隅に自転車を停めて、奥に見える富田都市農業交流センターの方へ向かうと、センターの建物の前に原田池が見えてくる。池はずっと奥まで続く。池の周りは木々が茂り、散策コースになっている。池の上のお花畑には色とりどりの芝桜が咲いている。



「おまごバス」の「富田町原田池」停留所。後ろは誰でも利用できる休憩所



千葉市乳牛育成牧場に隣接する原田池周辺の桜（2013年3月20日）

1 2. 乳牛育成牧場・千葉酪農工場（「おなりミルク工房」）

乳牛育成牧場はお花畑のすぐ隣にあるのだが、自転車の場合には、少し遠回りして牧場の東側に行く（末尾にあるルートマップを参照）。

牧場を後にして御成街道に出たら左折。少し先に千葉酪農工場（「おなりミルク工房」）の売店があるので立ち寄る。お目当ては手作りアイスクリーム。

13. 千城台駅

帰りの道としてここでご紹介するルートは、「観光コース」（御成街道をまっしぐら）とは異なり、車の少ない里の道、田園・林間の道であり、概略次の所を経由する。詳しくは末尾にあるルートマップを参照。

「おなりミルク工房」～更級小学校富田分校～千葉市中田都市農業交流センター～千葉市若葉いきいきプラザ～千城台駅。



乳牛育成牧場